

2015年9月24日, 東京

以下は, WAW!参加者からの様々な提案やアイデアを踏まえ, 議長がとりまとめたものである。

ワークライフ・マネジメント／男性と共に変革する

「長時間労働」という働き方を変える

【具体的な提案】

- ・既存の法律や枠組みを見直し, 今ある障壁や打開策を特定する。
- ・ワークライフ・マネジメントは経済成長の軸となること, 長時間労働は社会にとっても, 企業にとってもデメリットが多いことを男女が共に理解できるような取組の実施, 制度の導入, データの収集に努める。
- ・男性の家庭及び職場での意識改革を実現するため, 政府, 地方自治体, 経済界が協働し「働き方改革」に取り組むとともに, 女性の教育, キャリアの開発を支援する。
- ・生産性の向上, 新たなビジネスの創出やイノベーションにつなげるため, 成果主義をより広く導入し, 企業の中での各人の職務内容を明確化, 業務プロセスの改革を実行する。

リーダーから変わる, 女性活躍推進のネットワークを拡大する

【具体的な提案】

- ・意識, 文化を創るのはリーダーの役割。リーダーによるトップ・ダウンでの意識改革を進める。
- ・女性活躍推進には経営トップのコミットメントが重要であることを認識する。
- ・多様な女性の活躍に賛同する男性リーダーが集まり, 継続的にメッセージを発信すると共に, 世界の先進事例を共有し, ネットワークを拡大する。

個人の能力を開花させる「教育」を進める

【具体的な提案】

- ・固定観念にとらわれず, 個人の能力を開花させる教育を初等教育段階から進める。
- ・男女が共に家族や社会を支え合うことの重要性を教える。
- ・男女にかかわらず育児に参画することは「かっこいい」との考え方を広める。

ICTを活用して, 新しい柔軟な働き方をデザインする

【具体的な提案】

- ・労働と家族責任の比重が異なる世代ごとに労働環境をデザインする。
- ・ICTを活用して場所にとられない働き方を推進し, 職場の風土を変革する。
- ・男性の参画を促すために, 女性活躍推進はそれ自体価値があるだけでなく, 大きな経済効果があることや生産性の高い社会の実現につながることを発信する。
- ・身近な情報だけでなく, 他の地域や国の事例・情報を共有することで, 新たな働き方を考える視野を広げる。

企業のイノベーションにつながる組織のダイバーシティを推進する

【具体的な提案】

- ・女性を登用するだけでなく, イノベーションを起こす経験を積める環境を提供する。
- ・昇進率の男女格差, 育児期の女性の正規雇用離職, 男女の分業の押し付けを取り除き, 男女の賃金格差を縮める努力を続ける。



- ・各企業は、女性活躍推進が自社の課題解決にもつながるとの認識の下、多様な人材が活躍し続けられる職場づくりに取り組む。政府・地方自治体はその取組を後押しする。

アジアにおける女性起業家を更に支援する

【具体的な提案】

- ・したい仕事をする、なければ作るという起業家精神を育てるカリキュラムを教育機関に設ける。
- ・女性自身が仕事と生活のバランスやリスクを考える余地が慎重になりすぎることなく、一歩踏み出せる環境を作り出す。
- ・一度失敗しても、また次に挑戦しようとする人を評価する文化を醸成し、女性起業家を支援する。

困難を抱える女性たち

支援制度を充実するとともに、積極的な利用を促す

【具体的な提案】

- ・シングルマザー、マタニティハラスメントに苦しむ女性に対し寄り添い、抱える問題の解決を積極的に図っていく社会を構築する。
- ・困難を抱える女性たちが子育てから就労まで必要なサービスを着実に受けられるような「しくみ」を作っていく。
- ・SNSを活用し、声を上げることで、問題提起や課題の共有をする。

シングルマザー支援活動を更に促進する

【具体的な提案】

- ・シングルマザーが貧困に陥ることなく、自分の持つ能力を活かし、労働市場に継続的に参加できるような環境整備を進める。
- ・保育インフラの整備、児童手当等の福祉制度は重要な役割を果たすことを踏まえ、支援サービスのワンストップ化や、就労支援（ロールモデルの紹介等）、育児中でも働きやすい環境の整備（企業におけるキッズルームの設置、子連れ出勤の容認等）を更に進め、母親が直面する困難を次世代に継続させない。

女兒と教育

公平で質の高い初等・中等教育を、すべての女兒が修了できるように努力する

【具体的な提案】

- ・女兒の教育を阻む社会的慣習（早期婚・若年妊娠、児童労働、偏見、暴力）があることを認識し、すべての女兒が初等教育・中等教育を修了できるように努める。
- ・女兒が安心して通学できる環境を整備する（合理的な距離に学校を設置する、安全な通学路を確保する、女性用のトイレを設置する等）。
- ・専門性の高い女性教師を養成し、配置する。

官民の両セクターで必要なリソースを強化する

【具体的な提案】

- ・各国政府のみならず、民間を含む各種セクター、国連等の国際機関、市民や家族が連携することで、教育の質の向上や環境整備を促進する。
- ・女兒・女性を含む優秀な学生等に対する奨学金を拡充する。

社会的イメージを克服し、理系科目を専攻する女子学生を増やす

【具体的な提案】

- ・メンター制度を充実させる。大学以下の教育機関でも、理系科目を専攻する女子学生をサポートする。
- ・理系分野の高等教育を受ける女性を増やし、女性の経済的自立を実現する。
- ・理系科目は男性のものと思われているだけでなく、女性の多くが苦手意識を持っている等の社会的なイメージがあれば、克服する。
- ・理系分野で活躍する女性のネットワークを促進させる。

平和構築と女性

平和構築プロセスにおける女性の参画を進める

【具体的な提案】

- ・女性が平和構築プロセス等に参画することに関する定量的・質的データを充実させる。
- ・平和維持活動や紛争を防止する活動、治安維持にも、女性の主体的参画を増やす。
- ・安保理決議 1325 号に基づく行動計画を作成し、指針を示す。

当事国・地域の女性、当事者の参加を進める

【具体的な提案】

- ・当事者のニーズを最も良く理解する女性の役割を認識し、平和構築・復興プロセスへの当事国・地域の女性の参加を進める。
- ・現地の情報を政府や世界に発信する。

復興プロセスにおいて、女性の権利回復、エンパワーメントを強化する

【具体的な提案】

- ・紛争後は、経済再生が重要。女性の経済的自立のために、地域の女性組織や市民社会を活用し、地域の実情に応じた取組を実行する。
- ・民間セクターが地域経済を活性化するように、起業家精神を引き出すように働きかける。

防災において、女性がリーダーシップを発揮する

【具体的な提案】

- ・女性のリーダーシップの発揮のために、多様な年代の男女が災害リスク削減のあらゆる意思決定に参画できるよう環境を整備する。
- ・現場で実践できる具体的な対策を男女が意見を出し合って考える。
- ・予防から復興までの災害サイクル全体を地域に暮らす多様な立場の男女の視点で考える。
- ・若い人を含む多様な人々の幅広い関心事を災害リスク削減活動に取り込み、その力を活かす。

多様な利害関係者の連携による国際協力

女性に配慮した企画、予算、データを整備する

【具体的な提案】

- ・国連グローバルコンパクトへの協力や CSR 等これまでの企業の取組を超え、有識者や NGO、慈善活動家を巻き込むような集団的なアクションを進める。
- ・多様な利害関係者の連携において、特に地域社会における女性のリーダーシップが成功の鍵である。



- 援助を受け入れる側と提供する側、各利害関係者が対等な立場で学び合い、議論に参加・協力する。
- ・多様な利害関係者が連携していくためのルールを作る。
 - ・モバイルバンキング、携帯電話等、テクノロジーを積極的に活用する。

トイレ（衛生）を通じた女性のエンパワーメントに取り組む

【具体的な提案】

- ・世界には、衛生的なトイレが使えない人が約25億人、日常的に野外排泄をしている人が約10億人いるという事実を広く認識する。
- ・これにより、感染症の拡大など衛生面の問題はもちろん、女性が性暴力に遭う、女子トイレがないことが就学の妨げになる、といった問題も起きており、その克服に取り組む。
- ・女性の初等教育との関連では、女子が使えるトイレが整備されると登校する女子が増加するなど具体的な成果を挙げた例もあり、こうした発展途上国における取組を支援する。
- ・上記を踏まえ、女性の安全や地位向上、暮らしの質の向上にトイレが果たす役割について、国境を越えて共有する。

若者が、自分たちの思い描く社会を作るためにできること

オープンな議論を促進し、自分自身の考えに基づいて行動する

【具体的な提案】

- ・周囲からの同調圧力や固定観念に捉われず、自分自身で考え、それに基づいて行動する。
- ・オープンな議論、若者同士で協力することを通じて、ステレオタイプを打破し、多様性が受け入れられる環境や、失敗を恐れずチャレンジし続けられる社会を作る。
- ・より多くの情報や人にアクセスできる環境を作り、若者が若者の視点や意見を発信できる機会を増やす。